



「祝いの言葉をつぶやいている松」2016 / acrylic canvas

作で、潤井道也、酒井、主な著書は「生きるか死んで」(文藝春秋)、『失業王』(セイバン)などと証明できます。毎日新聞社編著、「心の病がでらうか真実」(文藝新書)などが載っています。また、『心の病がでらうか』(文藝新書)、『心の病がでらうか』(文藝新書)などがあります。この二冊は、現役サッカー選手である彼の「自己開拓努力が豊富な精神」、達成感などを記録したものです。また、『達成感』は、彼の最初の小説「シンドバードの奇遇」(文藝新書)、『アーティスト』(文藝新書)、『アーティスト』(文藝新書)、『アーティスト』(文藝新書)なども登場人物として登場します。

の。松である。皇后を通る度に松を描いていた。松を見るとお祝いみたいなと思つてゐた。松の氣持らになる。新年だつたり、人が新たに背筋をびんとするような、道を正すような気持ちになる。旅立ちの気持ちになる。松をなぜ新年の祝いに飾るのか。歳神様がそれを自印にして山から下りて来るのを正すようだ。なるほどと思った。そんな松を昨年わざとベイントで美術館で描いたのだ。「これが松だ。」って思ふかもしれない。私もなげに思つた。そこのような松になったのが分からなくて、なるほどと思った。夢心地の松である。どこか真夜中のワクワク感。神秘的な松になった。が、これは私の理性で思う松と全然違つて、仕上がりながら驚いた。いつの日かセシリヨウに対するリョウを描くことでセシリヨウに対して思ふ、言葉にならない感情と対峙してみた

草月会館の「ラボレーション」展で家元に
選んでいただいた絵がある。それを誌面に
載せた。冬にセントヨウと同じく好きな物
光、物語を軸書写しているのであって、描
写とはほど遠い。

言葉にならないことを伝えたいたい時、やはり言葉を探す。

言葉にならないこと。波動のようなもの。小さな光のようなもの。大きなうねりのようなもの。それらは言葉にならないもの。それらは言葉にならぬけれど、とても大切だったりする。

そんな中、草木は私にむかしからすっと言葉にならないものを伝えてくれた。そして私は、草木を絶つることでその目に見えないものをビジュアル化できるようになった。みんなに見てもらうことで共有することができるようにになった。

いけばなど、芸術というものは、そういうためにあるのではないかと思う。

冬景色の中のゼンリョウを見たときに心に広がる、静謐な波紋。漂とした空気。それらへの詩的印象。それを正確に伝えるには、言葉は邪魔になることがある。私の繪は、草花がモチーフになることが多く、それはまたもう一つの生き方である。

冬の花へ贈る歌

冬の季節

冬がくると楽しみな花、植物はなんだらうか。私は冬、なんといつてもゼンリョウなのだ。赤い実。あれを見る、と、ああ冬だな、と思う。雪景色の中、真っ白の世界で赤い実を見つける。あれはもう思ひをとめる瞬間。どうしてなんだろう。時間が止まった様に感じてしまう。物語の世界、特に、詩の世界に飛び込むことができる。音楽ではなくて、単音が響く。笛の音。鈴の音。どこからかそんな響きが広がり、また静まる。

私は文章を書く仕事をしているが、絵の仕事をもしている。絵は、言葉にならないものを伝えられる。絵という表現方法を使うようになったのは、たまたまである。ヘンゼミュージアムの福武会長の授賞式でたまたまライブペインティングすることになり初めて描いた。心を無にして、ワクワクと、ただひたすらに描いた。お祝いの気持ちをあふれ

させた。最後に拍手が起きて、福武会長が「最近びんと来る餘、欲しい絵がなかつたけれど、この絵は欲しい」とつておしゃつて、また大きな拍手が起きた。画家として、大宮エリーガーが生まれた瞬間。そこから個展が続き、昨年は、十和田市現代美術館で5ヶ月の絵画展。現在愛媛県の道後温泉での芸術祭に参加している。

私はラジオやテレビに出演する。つまり伝える、表現する仕事をしている。だけれど、人間というものは言葉で轉じられる。自分の気持ちを伝えるのに、言葉がいる。考えを伝えるにも。そして、自分の中で、自分の気持ちや考え方を整理するにしても言葉がいるという哀しさ。ただ、言葉にならない感情もあるし言葉を使わない伝え方もある。抱きしめ合う。これも言葉に頼らない気持ちを伝える行為だ。ただ、それはとても近しい人にしかできない。初めて会った人に何か、言

させた。最後に拍手が起きて、福武会長が「最近、びんと来る絵、欲しい絵がなかつ

葉にならないことを伝えたい時、やはり
言葉を探す。

国	作家	執筆者	文献タイトル	媒体名	発行日	頁	発行元	展覧会名
J	大宮エリー		花の季節 私の時 冬 冬の花へ贈る歌	草月	2017年12月1日 No.335	pp.52 -53	草月文化事業 株式会社	

SOGETSU

2017 Winter
No.335

花創 Hana So

